

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立豊中高等学校能勢分校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	①：全国的な学力コンクールでの顕彰 ②：生徒と外部人材（企業・行政・学校等）との接点数 ③：生徒－地域住民連携型ワークショップの実施回数 ④：学校教育自己診断（生徒）の項目「学ぶ意欲」「地域課題解決」の肯定回答率 ⑤：外部機関の学力生活実態調査における学力および学習習慣の結果
計画名	Teracoya Nose Japan ～世代や国を超えた学び合いによるアクティブラーニングの実現～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力の定着と希望進路実現 <ol style="list-style-type: none"> 主体的・能動的な学習の促進 <p>ア 生徒が1人1台端末を利活用できる環境を整備するとともに、ICT 機器やグループウェアの活用により、学校でも家庭でも学習を習慣化する仕組みを構築する。</p> 「挑戦」「協働」「創造」できる力の醸成 <ol style="list-style-type: none"> 持続可能な未来社会の実現に向けて新しい価値を生み出す力の育成 <p>ア ユネスコスクールのネットワークや国際協力団体・海外姉妹校等との交流により、多文化共生意識の醸成やSDGs 教育の充実を図る。</p> <p>イ グローバルな視点から地域課題を捉え、新たな解決策や新たな価値を生み出す力を育む。</p> 地域との協働による教育活動の磨き込み <ol style="list-style-type: none"> 地域との協働による課題探究の実践 <p>ア 近隣の大学や関係機関、行政、地域団体・企業等との協働により、地域課題を自分ごとと捉え、正解のない課題に向き合う探究学習を深化させる。</p>
事業目標	<p>「Teracoya Nose Japan」（略称：TNJ）とは、能勢分校が学びの連携拠点となり、世代や国を超えて学び合う機会を提供することを通じて、関わるすべての人における主体的・対話的で深い学びを促進する事業の呼称である。コンセプトは、3つの Co（「Connect：つながる」「Communicate：つたえる」「Collaborate：ともにやる」）。</p> <p>具体的には、生徒や地域住民がいつでも利用できる共創空間（ラウンジ）を校内に設置し、探究活動、ワークショップ、国内・海外交流、外部人材講演、自己研鑽できる場を提供。学びの連携拠点校としての機能・役割を果たすことで、地域とのさらなる信頼醸成に加え、「SDGs 未来都市」である能勢町の持続可能なまちづくりに貢献する。</p> <p>本事業を通じて、下記3点の実現をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> ＜生徒＞主体的な学びを通じた、「課題設定・解決力」「協働して活動する力」「やり抜く力」の習得 <p>→ 主体的に仲間や地域住民と共に学び、地域における本質的な課題を捉え、ねばり強く課題探究を続ける。</p> ＜教員＞地域との協働による「実践体験型 PBL プログラム」の開発と実践 <p>→ 地域の企業や団体、行政が抱えている現実課題に対して、一緒になって解決を試みるプログラムを確立する。</p> ＜地域住民＞学びを通じた生活の質の向上、企業活動の加速、児童・生徒の新たな発見

	<p>→ 蓄積した知識・技能や地域の文化を継承・還元するとともに、新たな学びの機会を通じて地域住民の QOL 向上や企業活動の活性化、児童・生徒の新たな気づきを導出する。</p>
整備した設備・物品	<p>○会議室のリノベーションに係る設備・物品一式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャスター付きワークテーブル、ミーティングチェア、移動式ホワイトボード ・床材（タイルカーペット）・ロールカーテン ・大型スクリーン、プロジェクター、広角カメラ、集音マイク、壁面ホワイトボード
取組みの 主担・実施者	<p>主 担：グローバル推進委員会（准校長・教頭・首席・学年主任・有志参加者 5 名） 実施者：全教員、能勢の高校を応援する会</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Classroom や Jamboard 等のアプリケーションを活用して、相互の学び合いを加速させる。 ・ 学校（教職員および生徒）と「能勢の高校を応援する会」との連携による「能勢町版寺子屋」について、遠隔地とのオンライン接続を交えて年間 4 回以上実施する。 ・ 「地域協働コンソーシアム」を拡大するとともに、「能勢の地域魅力化 PBL」をブラッシュアップし、地域魅力化・ユネスコクラブの顕著な活動成果につなげる。 ・ 姉妹校であるアスタ高校（マレーシア）との常時接続によるシームレスな学び合いや交流の空間を構築する。 ・ 本件に対する教育関係者や報道機関等からの視察・見学の受入れを年間 1 回以上実施する。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国的な学力コンクールでの顕彰【グローバルハイスクールミーティング（文部科学省）等のコンクールで優秀賞受賞】 ・ 生徒と外部人材（企業・団体・学校等）との接点を 30 組織以上と持つ ・ 生徒－地域住民連携型ワークショップを年間 3 回実施 ・ 自己診断（生徒）の項目「学ぶ意欲がある」の数値が 70%以上 ・ 自己診断（生徒）の項目「地域課題解決につながる学習の実施」の数値が 70%以上 ・ 地域に向けた報告会等の実施を年間 1 回設定 ・ 姉妹校であるアスタ高校（マレーシア）との協働によるオンライン交流学習を年間 1 回以上実施
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国的な学力コンクールでの顕彰には至らなかった。……………（△） ・ 外部人材との接点数は 35 組織であった。……………（○） ・ 生徒－地域住民連携型ワークショップを 2 回実施した。……………（△） ・ 学校教育自己診断（生徒）の「学ぶ意欲」の項目の数値は 77%であった。……………（○） ・ 学校教育自己診断（生徒）の「地域課題解決」の項目の数値は 75%であった。…（○） ・ 地域住民も参加する形式での課題探究最終発表会を 1 回実施した。……………（○） ・ アスタ高校との交流は校長間協議にとどまった。……………（△） ・ 教育関係者や報道機関等からの視察・見学の受入れを 1 回実施した。……………（○）
事業まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業のメインコンセプトである「世代や国を超えた学び合いによるアクティブラーニングの実現」は概ね実践できた。学年を横断した学び合いや世代を超えた学び合いが自然と成り立つ共創空間を構築することができた。一方で、国を超えた学び合いは時差の兼ね合い等もあり実現が困難であった。 ・ 本事業の成果等をふまえ、本校の選択教室の一室について、令和 7 年度中に共創空間へとリノベーションすることに決定した。可動式の什器（ワークテーブルやミーティングチェア、移動式ホワイトボード等）は学び合いの促進に親和性が高く、通常の授業でも十分な活用が見込まれるためである。